

鈴木 真衣子 個展

SUZUKI Maiko solo exhibition

KUNST ARZT

www.kunstarzt.com

集団の分断

Division of a group

KUNST ARZT では、鈴木真衣子の初個展を開催します。
鈴木真衣子は、版画やアニメーションを用い、日常的なモチーフをポップにユーモラスに「分解」することで、そのモチーフに対する“思い込み”を揺さぶるアーティストです。

一般家庭の水回りに着目し、蛇口や排水口といった見えている部分以外の、給水・排水システムの存在を再認識したことをきっかけに「分解」する展開がスタートしました。

3次元だと思いついでいるモチーフを“裏切る”形で「分断」する。この裏切り方にこそ、アーティストならではのメッセージや感性が表れています。ご注目ください。

(KUNST ARZT 岡本光博)



鹿 2019年、油性木版・鳥の子紙

経歴

1995年 京都府出身
京都市立芸術大学 大学院美術研究科 絵画専攻 版画 修士課程在籍

グループ展ほか

2017年「しんすい展」(元・崇仁小学校 / 京都)
2018年「第11回大野城まどかぴあ版画ビエンナーレ」まどかぴあ未来賞(大野城まどかぴあ / 福岡)
2018年「第43回全国大学版画展」優秀賞(町田市立国際版画美術館 / 東京)
2019年「A-Lab Artist Gate 2019 新鋭アーティスト発信プロジェクト」(あまらぶアートラボ / 兵庫)
2019年「大学版画展受賞者展」(文房堂ギャラリー / 東京)
2019年 京都市立芸術大学・東京藝術大学合同版画展「PORTO DI STAMPA 2019 圧力の湊」(アートゾーン神楽岡 / 京都)
2019年「第7回 PORTO DI STAMPA - 京都芸大版画8人展 -」(B-gallery / 東京)
2019年「全国大学版画展 第13回受賞者展 山形巡回&北の版画たち」(東北芸術工科大学 ギャラリー THE TOP / 山形)
2019年「京都のチカラ『50人50色』」(リーガロイヤルホテル京都1階ロビー)
2019年「第44回全国大学版画展」優秀賞(町田市立国際版画美術館 / 東京)
2019年「Print for Sale」(hatoba cafe Gallery / 京都)

2020年10月20日(火)から25日(日)

12:00から18:00

会場: KUNST ARZT

605-0033 京都東山区三条神宮道北東角 2F

問い合わせ



KUNST ARZT 代表 岡本光博

090-9697-3786

kunstarzt@gmail.com

鈴木 真衣子 個展
SUZUKI Maiko solo exhibition



集団の分断
Division of a group

アーティスト・ステートメント+ 展覧会コンセプト

どんなに熱烈な支持を得ている食べ物でも、動物でも、スポーツでも、「分解」することで、単なる造形として無感情に見ることができる。
私が作品を作るのは、日常にあふれている思い込みについて考え直したいからだ。
近作では、誰もが目にしたことのある物の「分解」に取り組んでいる。

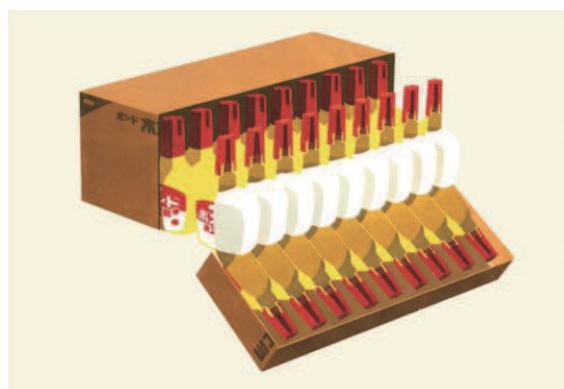


林檎

2018年、油性木版・鳥の子紙
ここで「腰掛けあり継ぎ」の構造を使用した理由は2つある。
1つ目は、林檎に全く関係のない分解をすることで、「これは林檎である」という意味を無視するため。
2つ目は、鑑賞者に「結合」を意識させるためだ。

スクラム

2020年、油性木版・鳥の子紙
ラグビーを取り巻く熱狂には目を向けず、単に造形として扱っている。
選手の姿を色毎にまとめたパーツに分解し、赤色のパーツのみを作品化した。



ペアルック

2019年、アニメーション
ここでは、ペアルックの男女のカップルを「自分たちが圧倒的に正しいと信じている多数派の象徴」として扱っている。

木工用ボンド

2019年、油性木版・鳥の子紙
箱とボトルは分断されているが、中身はそのままの形なので、頭の中で合体させる感覚を味わえる。